

Q 4. 青銅製祭器は地域的に特徴的な分布があるともいわれる。どのような青銅器が、どのあたりの地域に分布しているか？ [P. 19L. 1～；図表P. 38①、②]

(近畿圏) ^{どうたく}銅鐸 (瀬戸内沿岸) ^{ひらがたどうけん}平形銅剣 (北九州) ^{どうほこ}銅矛・^{どうか}銅戈

※「青銅」＝銅、錫、鉛の合金。もろくはなるが、加工が容易で硬くなる。

☆島根県・11 ^{こうじんだに}荒神谷 遺跡…358本の銅剣、6個の銅鐸、16本の銅鉞が出土。[図表P. 38②③]

☆島根県・12 ^{か もいわくら}加茂岩倉 遺跡…39個の銅鐸発見。[図表P. 38②③]

③石器、木器～農具等で使用 [図表P. 36] ←よく見ておくこと！

4. 生活

①環濠集落・高地性集落の登場

☆奈良県 ^{からこ}唐古・^{かぎ}鍵遺跡…環濠集落。大量の木器が出土。[図表P. 41]

☆奈良県 ^{まきむく}纏向遺跡…3～4世紀の大集落遺跡。邪馬台国の有力候補地か？ [図表P. 12&41]

☆佐賀県・13 ^{しやう}吉野ヶ里 遺跡…日本最大級の環濠集落。[図表P. 40]

☆香川県・14 ^{しう}紫雲出山 遺跡…弥生後期の代表的高地性集落。[図表P. 37]

②墓の登場～古墳の前段階 [図表P. 37]

◇15 ^{しせきぼ}支石墓 …北部九州に限定。朝鮮半島・中国東北部から伝わる。[図表P. 37③]

◇16 ^{かめかんぼ}甕棺墓 …北部九州に多い。日本独自。[図表P. 33③]

◇箱式石棺墓…北部九州を中心に西日本。朝鮮半島・中国東北部から伝わる。

◇土壙墓…穴を掘って遺体を埋葬。全国にみられる。

◇木棺墓…木製の棺に遺体を埋納。全国にみられる。

◇再葬墓…遺体を土に埋め、白骨化したところで壺に収める。縄文時代より例がみられる。。

※以下の二つは支配者の墓とみられる。

◇17 ^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓 …四角く、周囲に溝をめぐる。畿内から全国へ。

◇18 ^{つちかみ}墳丘墓 …高く土を盛り上げる。[図表P. 37③]

☆岡山県 ^{たてつき}楯築墳丘墓…倉敷市。弥生後期の代表的墳丘墓。

19 ^{よすみとっしゆつ}四隅突出 型墳丘墓…中国地方～北陸地方に分布。特に山陰地方に多く見られる。

③埋葬法の変化

◇縄文時代の20 ^{くつせう}屈葬 から21 ^{しんでんそう}伸展葬 が次第に主流になる。

纏

◇ 青銅器は平形銅剣や銅矛・銅戈のように武器に見えるものでも、研がれていないので何かを傷つけることはできません。しかも平形銅剣などは極端に言えば相撲の行司軍配が細身になったようなもので、実用的な形ではありません。何らかの権威の象徴であったとも考えられます。銅鐸はもともととは楽器のようなものではなかったかと考えられています。

◇ 荒神谷遺跡で発掘された銅剣や加茂岩倉遺跡で発掘された銅鐸は、出雲大社隣の古代出雲歴史博物館に収蔵・展示されています。



(撮影者は筆者本人。館内の撮影は認められています。)

◇ 唐古・鍵遺跡は奈良県にある日本有数の大環濠集落（「甲子園球場10個分」らしいので計算してみたところ「マツダズームズームスタジアム16.7個分」の広さ）。邪馬台国説もある纏向遺跡（マツダズームズームスタジアム130個分！）にもほど近く、弥生時代の中心地の一つと思われる古代マニアには垂涎のエリア。銅鐸に描かれた建物を再現した楼閣で知られており、特に屋根などから伸びてくるんと巻いている何ものが印象に残る建造物です。この唐古・鍵を皆さんに印象づけるため、この建造物の「くるるん感」が表現された、キャラクターを掲載したいところでしたが、使用許諾申請が間に合わないため、「楼閣くん」で画像検索をお願いします。

◇ 図表 P. 35下段にあるように、吉野ヶ里遺跡では首のない人骨、刀状のもので傷つけられた人骨、複数の矢が腹に刺さった状態の人骨などが見られますが、他の弥生遺跡でも戦闘の痕跡が見られるものは多くあります。狩猟採集経済から農耕社会に替わることと戦闘の激化にはどのような関係があるのでしょうか？私の小さい頃に抱いていたイメージは、狩りをする人たちは農耕を営む人たちよりも攻撃的というものでしたが、どうもそれは違うようです。